

会議記録簿

会議名	平成30年度 第7回千曲市地域公共交通網形成計画策 定分科会	受託者	特定非営利活動法人 SCOP
		作成者	牧野 透太
場所	千曲市役所更埴庁舎 講堂		
日時	平成31年1月22日(水) 10:00~12:00		

1 開会

2 分科会長あいさつ

3 会議事項

(1) 千曲市地域公共交通計画(素案)について

- ・「資料1」について事務局(SCOP)より説明

《質疑》

(北島委員)

p52 「市を訪れるに」という表現があるが脱字か。

(SCOP)

脱字である。「市を訪れる人に」修正したい。

(北島委員)

目標値について。目標値が低くないか。

(SCOP)

人口減少が想定されるなか、利用を維持していただいても大変だと考えている。また、幹線では、便数を増加させる予定である。その中では1便あたりの利用者数を上げることは容易ではない。現状値として参考にしたものは、現在の循環バスの利用者数である。

(柳澤会長)

幹線については、便数を増やししながら1便あたりを増加させるので、がんばっていると評価できるのではないかと。地域交通軸、フィーダーについては、利用者数については、難しい面もある。

(北島委員)

このような表現であると、人によっては、「1便あたり2人しか乗らないバスを税金を使って維持するのか」というようにも捉えられる。目標なので、見た目だけでも大勢が使っているように見えるよう「年間利用者数」としてはどうか。

(事務局)

総合連携計画のなかでも年間利用者数を目標値としていたが、細かいところがわからないという課題があった。例えば、幹線に関する「年間利用者数」という目標値設定もひとつの方法ではあるので、検討したい。

(新井委員)

幹線の運行頻度を現状よりも増やした理由を教えてください。

(事務局)

上位計画においても中心市街地と生活拠点を結ぶということが書かれている。移動が多い、中心部を手厚く運行するという考えである。

(新井委員)

今ある運行便数現在 64 便運行しているが、それが何便になる予定か。

(事務局)

便数までは、まだ決めていない。

(新井委員)

目標値の 1 日 14 便でということは、土日も含めてか。

(SCOP)

土休日の運行までは決めていない。

(新井委員)

見直し時期はいつか。

(事務局)

平成 31 年 10 月である。

(高村委員)

企業に対しても働きかけをしてはどうか。

(高村委員)

企業に対してもモビリティマネジメントをしてはどうか。

稲荷山駅への移動について、路線を検討してはどうか。

バス停だけでは「千曲市らしい」といえない。防犯ポイントとして防犯カメラの設置など機能をたかめてはどうか。

ティマネジメントは鉄道、バス事業者とタイアップして進めていきたい。

稲荷山駅については、利用状況調査もしたが、そういった結果を踏まえ考えていきたいが、今回の計画では、具体的に路線を盛り込むのは難しい。

防犯カメラについては、現在バス車両にドライブレコーダーがついている、計画の中では目標値として明確に設定するのは難しい。

(SCOP)

今回の計画はまちづくりにも資する計画である。千曲市として今後「人を集約する」ことも考えていかななくてはならない。市の中心は屋代である。ここに人を集めることが優先ではないか。

(平林委員)

目標として「ベンチの設置数」をあげているが、上屋なども盛り込めないか。

(事務局)

実施施策の本文として掲載したい。

(斉藤委員)

計画は目標地域に示すなかで、事業費の目標として利用者数、収支をあわせて示すことはできないか。

平成 31 年 10 月に消費税増税があるが、料金の改定を検討しているか。

ベンチの設置、管理は千曲市で行うのか。

(事務局)

現在の循環バスでは、無料で乗っている利用者もいるため、事業費と収支については示しにくい。

料金については、乗換運賃などの関係もある。同じタイミングで検討していきたい。

ベンチは、市で管理することもあるが、地域においては、地区にて管理してもらいたい。道路占有などについては、市で実施したい。

(玉井委員)

利用者数の見せ方については、「1日当たりの利用者数」としてはどうか。

スケジュールについては、平成31年は幹線の見直しのみという理解でよいか。

地域で考えるという視点では、地域で路線について知るようにバスカルテをつくっている例もある。

ICカードのスケジュールについては、どのように考えているか。

(事務局)

幹線と地域交通軸を同じタイミングで平成31年10月見直しを目指している

ICカードはKURURUについての情報共有はしている。検討はまだ、今後取り組んでいきたい。

(玉井委員)

まだ、KURURUに決めているわけではないかもしれないが、KURURUも10カードとの連携も検討されている。

(新井委員)

目標値の事業費8600万円を現状以下にする根拠はどこにあるのか。運行事業者にしわ寄せがくるのではないか。

(SCOP)

路線を削減しているところもある。また、便数を増加するのは大循環線のみである。

(新井委員)

運行事業者としては、厳しい状況である。ここで、総額にキャップをかけられると厳しい。

(SCOP)

運行事業者に無理な負担を強いることはないようにしたい。

(北島委員)

利用者数の目標値については、現在の路線からの推計値であっても現状値を示した方がいい。

(事務局)

検討したい。

(2) 時刻表について

- ・「資料2」について事務局より説明

(3) その他

閉会

以上